

## 殿島村名主資料について

この殿島村名主家資料91点は、平成15年秋、県内の古書店より購入されて、高遠町図書館の所蔵となった資料である。

殿島村は、現在伊那市東春近地区の一部であるが、江戸時代には高遠領春近郷に属し、宝永の頃、殿島村を、上・中・下のそれぞれの独立した三つの村に分けたようである。この資料の主なるものは、上殿島村の名主唐沢家に残されていたものと思われる。

これらの資料によると、上殿島村の村高は、江戸時代を通してほぼ570余石、人口750人程の村であったが、天竜川と三峰川に囲まれて、用水には恵まれていたが、度々の洪水による田畑の損耗、橋梁の流出などに悩まされ、また、刈敷き山を持っていないために、田畑の培養にも苦労したようである。

宝永七年、この地方を調査した幕府巡見使に対し、元禄三年の真田藩による検地により、古検地より800余石の高増しとなった過酷さを訴え、再検地を求める願書、中山道宿々への助郷負金軽減の願書などもあって、興味深いところである。

高遠町図書館に所蔵されている資料の大部分は、旧藩士の諸家からの寄贈による支配方資料であるが、この資料は貴重な領分の<sup>じかた</sup>地方資料であり、名主交替の度毎に引き渡し書類が作成され、大切に保存されてきたものであり、さらに長い時代を超えて、現代の私共へと引き継がれた先人からの贈り物でもある。

平成15年11月  
伊那市立高遠町図書館